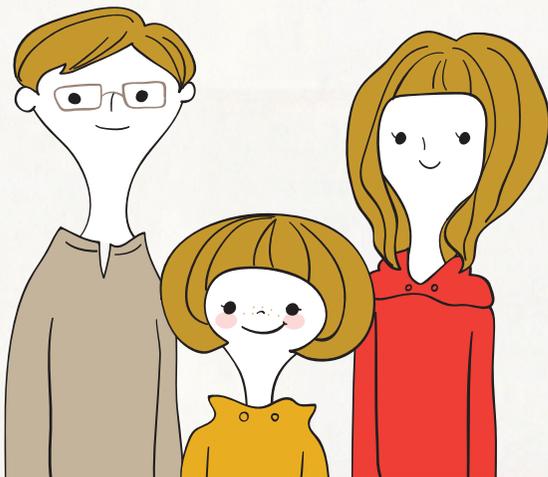


# 発達障がいにな どう向き合うか

—特別な配慮を必要とする  
児童・生徒の現状と学校適応—



●司会  
吉田 甫 (立命館大学)

●話題提供  
**不器用な脳？**  
—身体性から考える神経発達障害—  
中井昭夫 (兵庫県立リハビリテーション中央病院  
子どもの睡眠と発達医療センター副センター長)

**いい子の定義**  
—脆弱性と豊かさの視点から—  
神山 忠 (岐阜特別支援学校)

**ユニークな世界を共有する**  
—自閉スペクトラム症の理解と支援—  
別府 哲 (岐阜大学)

●指定討論  
河合優年 (武庫川女子大学)

日時

2016年

12/4 日

13:00~16:00 (12:30受付開始)

場所

立命館大学

大阪いばらきキャンパス C棟  
2階レクチャールーム273

定員 250名

参加費 無料

どなたでも参加できます。直接会場へお越しください。



一般社団法人 **日本教育心理学会**  
The Japanese Association of Educational Psychology

事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-24-6 本郷大原ビル7階  
電話/03-3818-1534 FAX/03-3818-1575  
E-mail/office@edupsysh.jp

## 内 容

# 発達障がいに向き合うか

## — 特別な配慮を必要とする児童・生徒の現状と学校適応 —

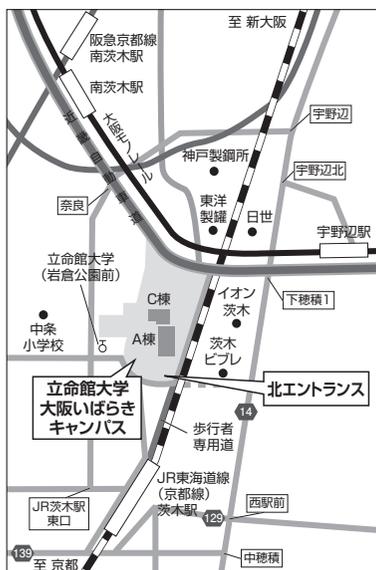
日 時／2016年12月4日(日) 13:00～16:00 (12:30受付開始)

会 場／立命館大学 大阪いばらきキャンパス C棟 273教室

学校教育現場においては、特別な配慮を必要とする児童・生徒・学生の数が年々増加してきている。しかし、現場の教育者や保護者が、これらの子どもたちについての実態やそれを理解するための情報を十分に知っているのかということになると、大きな疑問符がつく。このような支援を要する子どもの理解は、個々の子どもへの支援と同時に、学級全体の力動的な関係や雰囲気、子育てに対する焦点化されない不安など、マクロ的な視点からも大きな意味がある。

このシンポジウムでは、最初に特別な支援を必要とする子ども像について話題提供をいただき、教師、支援者、そして当事者経験者の視点から議論を進め、教育心理学に関わる研究者と実践者が、今どのように学校現場の問題に向き合うのかについて考えて行きたい。

教育現場での実践的な感覚を大切にしながら、子ども中心主義の教育心理学について参加者の意識を深められればと考えている。



## 参加方法

無料でどなたでも参加いただけます。  
直接会場までお越しください。

## アクセス

- 最寄駅 JR東海道線(京都線)茨木駅  
茨木駅東口の右手方向、線路に沿って徒歩5分。A棟入口より入り、2階廊下からC棟にお進みください。  
車でのご来場は、ご遠慮ください。
- 所在地  
〒567-8570  
大阪府茨木市岩倉町2-150  
立命館大学大阪いばらきキャンパス